

平成 27 年度

森と水の地球環境大学

(第 2 回講座)

地域の未来と 自然エネルギー

東日本大震災から間もなく 5 年、固定価格買取制度の開始から 4 年が経過する中で、日本の電力システムは大きな転機期を迎えようとしています。

激変する社会情勢の中で、私たちは地域の資源をどのように活かすことが出来るのか。そして、その先に見えてくる持続可能なふるさと実粟の姿とは。

全国の中でも先進的な取組が進められている、福知地区の小水力発電事業に関する事例報告も併せてご紹介します。

日時：平成 28 年 2 月 20 日（土）

午後 2 時から 4 時まで

場所：実粟防災センター 5 階 ホール

※ この講座は「しそう学びパスポート」の対象講座です。



【講師】

茨城大学農学部 小林 久 教授(農学博士・技術士)

新潟大学理学部卒、東京農工大学大学院連合農学研究科修了、地域資源循環システムの計画手法で農学博士（東京農工大学）。

技術士（農業部門）、建設コンサルタント会社勤務、コンサルタント事務所主宰を経て、現職研究テーマは地域資源計画、再生可能エネルギーシステム、小水力利用・水車発電システム、農業・農村活動の LCA・物質フロー分析、参加型開発の評価・計画など。